

たじみん昼話 74

とんだ発想とお試しについて

世の中には、我々の好奇心を刺激する不思議な現象が多く存在する。この現象を解明するために、物理学や天文学、流体力学など様々な学問が立ち上がって、我々に豊かな生活を提供しているのは周知の事実だ。

自然現象の中でも解明が遅れている分野の一つに人体がある。特に謎が多いのが脳の働きだ。日頃我々がやっている発想メカニズムも、実はよくわかっていない。ましてや心・精神力・意思といった分野に至っては、科学者でさえ謎めいたスピリチュアル的な説得力に欠ける説明に終始することも多く、またその活用も遅れている。

しかし、極めて解明が進んでいる分野もいくつかある。その一つが筋肉の動きなど体の動作に関する分野だ。例えば、眼球運動の研究は、目の動きだけでキーボード操作を可能にし、体の不自由な人のデジタルデバイドの解消に一役買っている。

そんな中、米にあるフェイスブックという会社は、空間上の手の動作だけで様々な機械を操作する方法を開発した。

現在〇〇ウォッチなど血管の脈動の変化を基にしたウェアラブル機器は存在する。これらと開発された機器が違う点は、体の部位を動かそうとする際に変化する表面筋電位(皮膚表面の電流変化)を基に作動する点だ。即ち、意識した指や腕の筋肉運動により発生する電流を利用すれば、そのままマウスやキーボード操作を可能に代にするという点が新しいのだ。音声操作に対してプライバシー守秘効果も高いので、この装置をAIと組み合わせて、ドラえもんやSF映画で空想した世界を実現することも可能性になりそうだ。

ちなみにこの発想の出発点は、「あつたらないいな」という軽めの思い付きだったそう。これなら我々も出来そう？、ではないだろうか。大学時代のキキョウも、表面電位の活用までは思いついていた。ただ、1つ違う点は試作しなかったことだ。

つまり思いついたら試してみることが重要だということだ。

軽い問題意識で、「とんだ発想」をしたら、試してみることを肝に銘じておきたい。